

うまい!

岩船米づくり情報 No. 8

平成 27 年 8 月
岩船米技術者会議
村上農業普及指導センター
JA にいがた岩船

あなたの足跡が、水管理のバロメーター

人も、イネも

十分な水分・酸素供給で暑い夏を乗り切ろう!

◇7月30日現在の生育状況【普及センター調査ほこしヒカリBL】

調査地点	田植日	草丈 (cm、%)			茎数 (本/)			葉色 (SPAD)			予想出穂期
		本年	指標比	前年比	本年	指標比	前年比	本年	指標差	前年差	
山北/大 毎	5/10	84	99	99	372	98	90	30.5	-3.0	+0.1	8月6日
朝日/川 端	5/11	86	100	106	354	89	119	34.8	+2.8	+3.1	8月4日
村上/鋳物師	5/18	80	94	89	375	95	91	32.9	-0.1	-2.6	8月9日
神林/牛 屋	5/10	84	104	93	382	106	91	34.5	+1.0	+2.2	8月8日
荒川/名 割	5/11	84	97	97	437	115	115	33.3	+0.3	-2.9	8月14日
関川/下 関	5/9	82	96	101	511	135	145	33.3	-0.2	+2.3	8月10日
平均	5/11	84	99	97	404	106	117	33.8	+0.8	+0.9	8月8日

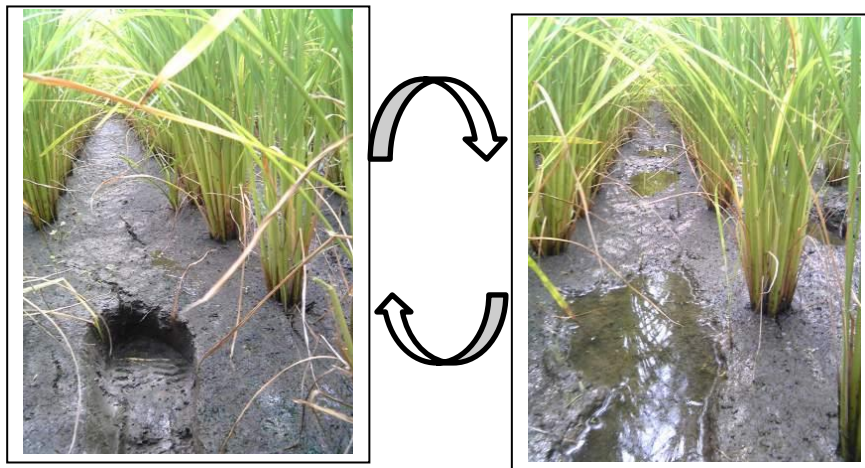
※平均は、6地点の水稻作付面積に応じた加重平均

- 草丈：並 ●茎数：並（一部やや多） ●葉色：並
- こしヒカリの出穂期は8月4日～14日と大きくばらついています。

- 7月21日に梅雨明けしたものと見られます（平年より3日早い）。
- 台風11号、12号通過後、晴れて暑い日が続いています。
- 8月いっぱい晴れて暑い日が続くと予想されています。

1 出穂 25 日後までの「飽水管理」で根の活力維持を!

【足跡に水がなくなったらかん水】



- 出穂 25 日後（収穫の 2 週間前）までの飽水管理で、イネが水を十分に吸収し、登熟向上が図られるように心がけましょう。
※飽水管理とは?・・・水尻をしっかりと止め、3~4日に1度水が無くなってきたらかん水する方法です。
- フェーン現象やダシ風が予想される場合は、あらかじめ湛水して稲を保護しましょう。
- こしヒカリでは、完全に落水するのは9月5日以降としましょう。

2 大切な根を長持ちさせる注意点

☆高温時の長期間の湛水は、根腐れの原因となるので、時々水の交換（酸素供給）を行きましょう。

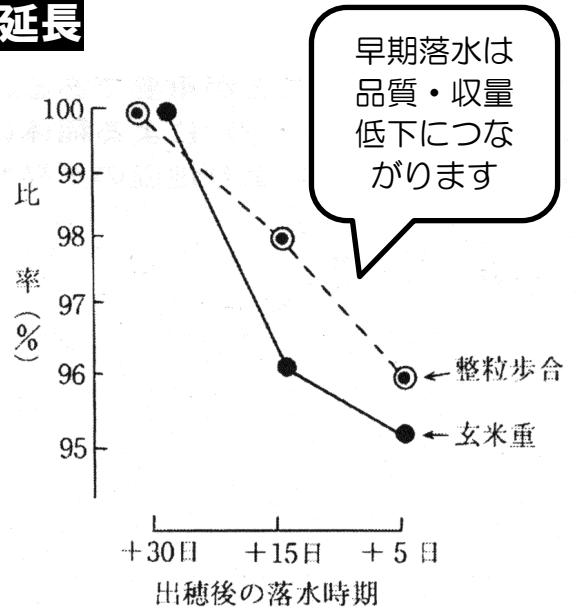
☆また湛水状態では夜間の地温が気温より高くなり、高温時は根の機能低下を引き起こすので、夜間落水・早朝かん水などの手段により、地温を下げましょう。

3 最終用水を活用して、落水時期を延長

用水が切れる前に確実にかん水して、登熟期後半の水分を確保しましょう。

完全落水は出穂後25日が目安ですが、砂質系水田や、暑い日が続くほ場の過乾燥が懸念される場合は、**出穂後30日くらいまで落水時期を延長**してください。

※落水は可能な限り遅くし、さらに、用水停止後、暗渠排水の水こうの開放も可能な限り遅くすると効果が高まる。



落水時期と収量・品質(コシヒカリ)
(昭57、新潟農試)

4 カメムシ類・いもち病防除の徹底を！

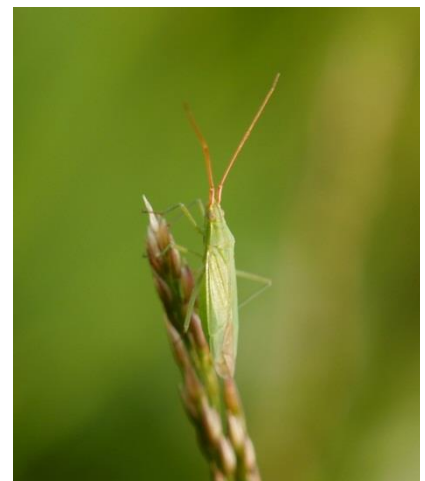
(1) カメムシ類の防除

7月1日にカメムシ類の多発生に関する注意報が発表されました。度重なる台風の接近で、晴れて暑い日が多く、カメムシにとっては繁殖に絶好の条件が揃いました。今後の多発生が予想されます。

出穂後の2回防除で、被害を最小限に抑えましょう。

カメムシ類の防除（粉剤、液剤の場合）

回数	めやす	カメムシの成長段階
1回目	出穂期の7~10日後	成虫の本田侵入期
2回目	1回目から7~10日後	幼虫のふ化終期



〈カスミカメ類多発生の懸念〉

(2) いもち病

7月下旬から、「葉いもち」が確認されるようになりました。現在は少発生ですが、降雨があればいつでも発生が拡大します。「葉いもち」が発生した場合は、カメムシとあわせて防除しましょう。

～水不足が心配されますので、地域全体で用水を大切に使いましょう～